

討 議

第 24 卷 第 5 號 昭和 13 年 5 月

禿 禿 地 に 於 け る 植 栽 に 就 て

(第 24 卷 第 3 號 所 載)

會 員 柿 德 市*

猶原恭爾氏の標題に關する論文は直接砂防工事に携はる吾々技術者に取つて植物学的見地より山腹工事施工上啓發する處妙からず甚だ貴重なる資料として滿腔の敬意を表する次第であります。

茲に參考のため讀後の感想を述べさせて戴くならば、

1. 現今山腹工事に於ては關係者の植物学的知識不充分なる爲に未だ系統的な生態学的研究は行はれて居ません。併しながら山腹工事の實地施工に際し筋工、積苗工等に使用する芝としては現場附近の雜草を用ひて採取費、運搬費等の節約を計つて居ますから、この事柄は畢竟貴説の如き適材適所主義にも則し、結果に於て生態学的要求をも満足して居る譯ではないでせうか。

2. 尙ほこの芝(現地附近の雜草にして学名上のシバに非ず)採取に當つては採取後の跡地が崩壞する虞れあるために、山腹面が 1.5 割以上の急斜地では絶対に採取せず、又 1.6 割以下の箇處と雖も採取面は幅 1m の横帯とし、且この帯の上下間隔を 1m 存置せしめることゝして居ます。

3. 又禿禿地に植栽する樹木に就てもその利用價値に主眼を置く様なことではなく、其處に生育し易い植物を先づ繁茂せしめ度いとの見地より、從來ハゲシバリとクロマツの混植を奨励せる土地でも、地味悪くクロマツの生長不良なる場合にはこの混植を廢し、先づハゲシバリのみを以て地力の回復を計り、然る後クロマツの自生を待つことゝし好成績を擧げて居る處もあります。

要之、氏の所説には全く同感にして、從來この方面の植物生態学的研究は殆んど皆無と稱するも過言でない程であるから、氏の如き植物学方面の篤学者に依り各地の山腹工事を科学的に指導して戴くことは斯界に一新生面を開くものとして切望に堪へぬ處であります。

著 者 准 員 猶 原 恭 爾**

標題の拙文に對して柿德市氏の御討議を戴き感謝致します。

1. 實地に施行されてゐます様に、現場附近から移植することは運搬費が嵩まないのみならず、生態的要求を満足させ易いわけです。然し雜草が現場附近に生育せるものなるの故を以て、必ずしも山腹工事に適するものではありません。即ち近接地なるが故に生態的要求を満すものでありません。例へば、現場附近でも、濕地或は陰地の雜草を日當りのよい、乾燥してゐる山腹に移植するならば、大部分は枯れて、折角の勞費も他種類の種子に發生し易

* 内務技師 工学士 内務省土木局第一技術課

** 東京府豊島師範学校教諭 理学士